

戦国を駆け抜けた  
最強夫婦の物語。

立花宗茂

闇千代

西国無双

戦国最強夫婦

# 乱世を駆け抜けた 戦国最強夫婦

戦国時代後期の九州北部に「西国無双」といわれる最強の夫婦が存在しました。偉大な二人の父のもと、豊臣秀吉をして「剛勇鎮西一※」と言わしめた立花宗茂。7才の時に立花家をゆずりうけ、戦国時代でもめずらしい女城主となった闇千代。義※をつらぬいたことで国を失い、義に生きたことで復活をとげる。波乱に満ちた二人の人生をともに見ていきましょう。

※剛勇鎮西一：豊臣秀吉が行った九州平定での宗茂の活やくを「その忠義も武勇も九州一である」と、秀吉が評価したことから由来している。  
※義：人の行くべき正しい筋道。わが身の利害をかえりみず他人のために尽くすこと。

武士の中の武士…それは、みなのおかげ。  
困ったときは、たよってくださいね。

出身地	豊後国(大分県豊後高田市)
生れ年	1567年
身長	およそ180cm ※着用していた甲冑から推断
武術	剣術(タイ捨流免許首伝)・弓術(白旗流免許首伝)
教養	連歌・書道・茶道・音道・蹴鞠・狂言・能楽・笛・舞曲・料理など多数
異名	「西国無双の勇将」「九州一の勇将」など多くの異名がある

※宗茂は晩年の名乗りであり、本書では宗茂に統一する。

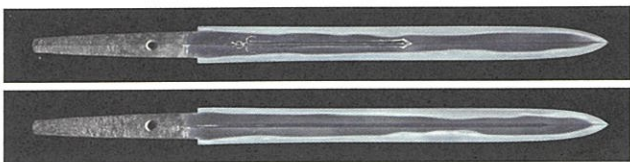
## 二人の父からの英才教育

宗茂は子供のころから度胸があり、頭もよく、実父の高橋紹運と養父の戸次(立花)道雪から、厳しい英才教育を受けました。学問にくわえ大きな体をいかにした武芸にも優れ、はじめての戦では部隊をひきい、敵武将を討ち取りました。

## 義に生きた奇跡の復活劇

宗茂は、謙虚で義にあつい人でした。関ヶ原の戦いでは豊臣家への恩義から西軍についたものの、敗軍の将として改易※され、浪人※生活を送ります。のちに改易された大名のなかで唯一、旧領復帰※を果たせたのも、宗茂だからです。

## 父が宗茂にのこした剣：銘「長光」(重要文化財)



実父・高橋紹運が宗茂を戸次道雪のもとへ養子に出す際に与えたものとされ、宗茂はこの剣を死ぬまではなさず大切に持っていたという。

(公財)立花家史料館蔵

※改易：大名の領地・身分を幕府が没収し、大名としての家を断絶させて(取りつぶして)しまうこと。  
※浪人：主君の家を自ら去ったり、あるいは失ったりした武士。  
※旧領復帰：元々治めていた領地に復帰すること。大名に復帰した武将は他にもいるが、旧領を回復した武将は宗茂ただ一人である。

## 人物相関図

### 大友家

(大友家・第21代当主) 大友宗麟

### 立花家・高橋家

(主君を支えた義将) 高橋紹運  
宗茂の実父。大友家の宗茂が幼いころから英才教育をする。

(三池藩・藩祖) 立花直次(高橋) 四男  
宗茂の能力を認める

(柳川藩・第2代藩主) 立花忠茂 養子

(天下人) 豊臣秀吉 宗茂を大名にした恩人。

(大御所) 徳川家康 江戸幕府の初代将軍で、宗茂を味方しようとする。

(大友家随一の猛将) 戸次(立花)道雪  
宗茂の養父、闇千代の実父。宗茂の才能に惚れ込み、立花家の後継とする。

次男 長男 養子 一人娘

立花宗茂

結婚

闇千代

## ゆかりの武将

(奥州の独眼竜) 伊達政宗

(日本一の兵) 真田信繁(幸村)

戦国豆知識  
宗茂が生まれたのは1567年で、連れてきた英雄の「独眼竜、伊達政宗や」日本一の兵、真田信繁(幸村)と同じ年!

(鬼島津) 島津義弘  
宗茂にとっては親のカタキであったが、後に親しくなる。

(虎退治) 加藤清正  
宗茂・闇千代の恩人。闇千代の世話をする。

(柳川を統治) 田中吉政

宗茂が改易されたあとの筑後国を治め、宗茂が行った用水路整備を引き継ぎ新たな町づくりを行った。由中家は後継の忠政が男子を残さぬまま死去したために、1620年に改易された。そのあとの柳川藩は宗茂が旧領を回復する。

※藩祖：藩主の先祖。三池藩の初代藩主は立花種次。藩祖は種次の父である立花直次。

無礼な…女だからとあなどるなっ。  
われは「鬼道雪」の娘であるぞ!

出身地	筑後国(福岡県久留米市)
生れ年	1569年
容姿	西国一の美しい姫 ※残された色白美人の肖像画から推察
武術	薙刀の使い手 / 女鉄砲隊を組織して指揮
その他	名前にある「闇」の字は、「憤み人の話を聞く」という意味 (名前にこめられた願いとは逆に、気性が激しかったといわれる)

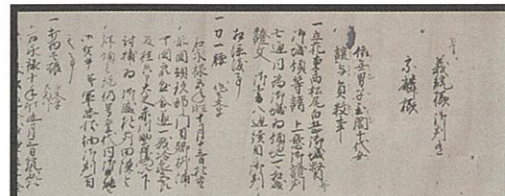
## 戦国でもめずらしい女城主

実父は大友家の重臣・戸次(立花)道雪で、刀で雷を斬った伝説や鬼道雪の異名をもつ猛将。道雪からわずか7才のときに立花山城主の座を継承。戦国時代に、城主になったことを公的に資料で確認できる唯一の女性といわれています。

## 天下人もおそれぬ武勇伝

幼いころから父・道雪に武芸を教えこまれました。また、性格も勝気なところがあって女鉄砲隊を組織し、自ら指揮するほどであったといえます。時の権力者であった豊臣秀吉にも堂々とした態度だったという話も残されています。

## 父から闇千代へのゆずり状：「戸次道雪議状写」(重要文化財)



道雪が闇千代に立花山城主の座と、それに関連する全てをゆずるとされたもの。書状のはじめに主君のおおとも宗麟・義統の名が見える。

(公財)立花家史料館蔵・柳川古文書館寄託

## おうちの方へ

紹介した逸話や伝承は一説であり、史実にもとづいたものではありません。また、マンガは、歴史的事実にできるだけ忠実に構成していますが、文中の会話・絵の中の衣装・背景など、正確な記録が残っていないものについては、おさまが興味を持って読めるように、独自にかきおこしている部分もあります。さらに、年代や人物の生没年については、さまざまな説がある場合があります。人物の年齢は、原則的に明治時代以前は、数え年(生まれたときを1才とし、年がかわるたびに1才ずつ年齢をくわえる方法)で表記しています。

立花宗茂

闇千代

豪胆秀麗

# 宗茂・閻千代

## 戦国道のり

1567年  
宗茂(誕生)

1567年  
宗茂(誕生)  
大友家の重臣・高橋紹運の長男として、豊後国(大分県)に生まれる。

1569年  
閻千代(誕生)  
大友家の重臣・戸次(立花)道雪の一人娘として、筑後国(久留米市)に生まれる。

後継がいなかった道雪に教育された閻千代。父ゆずりの武芸に優れた女性へと成長しました。

1571年  
戸次(立花)道雪は主君である大友宗麟から立花山城の城主を任せられる。

子供のころから度胸があり頭もよかった宗茂。その才能を見抜いた道雪から厳しい英才教育を受けて育ちました。

1575年  
閻千代(7才)  
戸次(立花)道雪から家督をゆずられる。戦国時代でもめずらしい女城主の誕生。  
※家督:家の財産や権利。あととり。

岩屋城は四王寺山の腹に築かれた山城(太宰府市観世音寺)



1586年  
高橋紹運が島津氏との「岩屋城の戦い」で戦死する。(享年39)

北野天満宮の辺りで亡くなったといわれる(久留米市北野町中)



1585年  
戸次(立花)道雪が陣中で病気でこの世を去る。(享年73)



1582年11月  
宗茂(16才)  
立花山城で「御旗・御名字」の祝いをし、名字を立花に改める。

1582年  
本能寺の変  
織田信長が京都の本能寺で、家臣である明智光秀に討たれる。

1581年8月  
宗茂(15才)・閻千代(13才)二人の結婚。宗茂は閻千代に代わり道雪から家督をゆずられる。

1578年  
大友氏が「耳川の戦い」で島津氏に敗れ、大友氏の家臣が次々に離れていく。それでも戸次(立花)道雪と高橋紹運は大友家を支え続ける。

1586年  
宗茂(20才)  
立花山城が島津軍に包囲されるが、豊臣秀吉の援軍が到着し、島津氏を退却に追い込む。その機に高鳥居城を落とし、岩屋城・宝満城を奪い返す。



1587年  
宗茂(21才)  
豊臣秀吉から活やくを認められ、筑後柳川13万石\*の大名になる。  
※石(右高):土地の価値を取巻ける米の数量で表した単位。

豊臣秀吉は戦上手な宗茂を「東の本多忠勝・西の立花宗茂」と評したそうです。

1592年  
文祿の役  
1597年  
慶長の役

宗茂の戦いを目の当たりにした小早川隆景は、立花家の3,000の兵は他家の1万の兵に匹敵すると褒めました。

色白美人と評判の閻千代を秀吉は名護屋城へ呼び寄せます。女好きといわれた秀吉の前に閻千代は武器をまとい姿に秀吉は何もできなかったそうです。

1598年  
豊臣秀吉が死去

1600年  
関ヶ原の戦い  
宗茂(34才)・閻千代(32才)  
徳川家康の東軍と石田三成の西軍による、天下分けめの戦い。

1602年  
閻千代(享年34)  
腹赤村(熊本県長州町)にて、病のためこの世を去る。

宗茂は加藤清正の説得に応じ柳川城を明け渡す。宗茂と閻千代は清正が治める肥後(熊本県)に身を寄せる。

加藤清正は柳川城を包囲するのに向かう途中、臨戦態勢の閻千代や民と戦うのを避け退却したそうです。それほど閻千代をおそれ、戦いたくなかったのかもしれない。

1600年10月  
鍋島氏と「江上・八院の戦い」が始まる。



宗茂は東軍の大津城を包囲し降伏させた。(関ヶ原の本戦では西軍が敗北)

家康は宗茂を好条件で味方にしようとした。家臣の中にも東軍につくべきだとする者もいましたが、宗茂は「秀吉公の恩義を忘れて東軍につくなどありえない」と言って西軍で戦いました。

1603年  
徳川家康が江戸に幕府を開く。

1606年  
宗茂(40才)  
陸奥棚倉(福島県)に1万石を与えられ大名として復帰する。

1615年  
大坂夏の陣  
宗茂は二代将軍・徳川秀忠の軍に属し、戦った。

1620年  
柳川宗茂(54才)  
一度改易されてから旧領に復帰して大名となる。

1638年  
島原・天草の乱へ参陣  
宗茂(72才)  
松平信綱を総大将として参戦。

1642年  
宗茂(享年76)  
江戸の柳川藩邸にて、武勇忠義の生涯を閉じる。



# 柳川の章

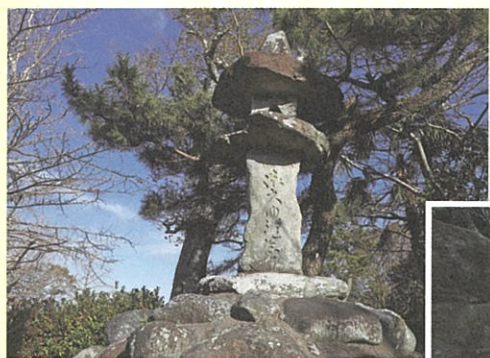
## 宗茂と闇千代ゆかりの水郷

福岡県南部に位置し、水郷※として名高い柳川市。戦国時代、この地は豊後大友氏、島津氏、龍造寺氏などがあそび場であったが、豊臣秀吉の九州平定後は立花宗茂に与えられ、宗茂の大名としての歩みが始まります。関ヶ原の戦いで西軍が敗れ宗茂が改易されると、石田三成を

捕らえた功績から田中吉政がこの地を治めます。田中氏が二代で途絶えると、浪人生活をへて奥州棚倉（福島県）藩主となっていた宗茂がふたたび柳川を治めます。旧領復帰という悲願をとげ、以降明治にいたるまで立花家が柳川の発展を支えました。

※水郷・湖や川の景色が美しい町や村。

### 1 柳川城址 やながわじょうし



柳川藩立花家の居城跡で、水の利をいかした守りのかたい城です。かつての天守閣は1872年に焼失。現在は石碑と石垣、天守台跡が残っています。  
【住所】柳川市本城町82-2



### 2 ひよしんじや 日吉神社



歴代の柳川藩主からうやまわれ、現在の社は三代藩主・立花鑑虎のころに建てたといわれています。「山王さん」と呼ばれ親しまれています。  
【住所】柳川市坂本町6



### 3 たちばなけ しりょうかん 立花家史料館

国指定名勝「立花氏庭園」内にあり、国宝・重要文化財をふくむ立花家に伝わる美術工芸品を約5,000点保管しています。宗茂や闇千代の歴史を感じる史料館です。



【住所】柳川市新外町1（立花氏庭園内）

宗茂が使用した「鉄砲革包月輪文最上胴具足」。よりの大きさから、宗茂がかなり大きな体格であったことがわかる。



（公財）立花家史料館

### 4 みやながさま きょかん あと 宮永様居館跡

宗茂が柳川城に入ると、闇千代は近くの宮永村に住んだため「宮永様」と呼ばれました。現在は跡地に石碑が建てられています。

【住所】柳川市上宮永町（馬場小路公民館）

※居館：住まいとしている邸宅・屋敷。



### 5 みはしらんじや 三柱神社

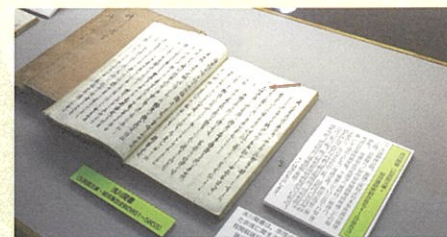
宗茂と闇千代、道雪を三神として、必勝・就職・縁結びの神様として親しまれています。現在は立花家の子孫にあたる方が宮司をつとめています。  
【住所】柳川市三橋町高畑323-1



境内の一角に立つ末社「太郎福何神社」



### 6 やながわ こもんじょかん 柳川古文書館



筑後地方の古文書を収集・整理・保管し公開しています。最大の魅力は、「立花家文書」といった貴重な史料を手にとり読むこと。歴史好きには必見です。  
【住所】柳川市隅町71-2



### 7 じゃくしょうざん りょうせいじ 寂性山 良清寺



宗茂が闇千代を供養するため、浄土宗の僧侶「応譽」を招いて建てた闇千代の菩提寺です。闇千代の墓があります。（墓の一般公開はしていません）  
【住所】柳川市西魚屋町49  
※供養：亡くなった人に対して死後の幸福を願い、祈りをささげること。  
※菩提寺：先祖代々の位牌や墓がある寺院。

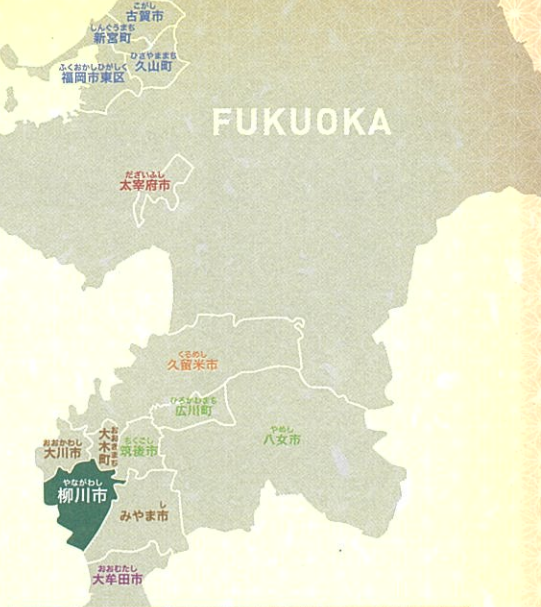
### 8 梅岳山 福厳寺 ばいがくざん ふくごんじ



立花家の菩提寺。もとは立花山にあった寺院（立花山梅岳寺）でしたが、宗茂が柳川城に入る際に移されました。立花家歴代当主の墓があります。  
【住所】柳川市奥州町32-1



本堂裏手にある宗茂の墓（左）と道雪の墓（右）



### おに かしん 鬼の家臣は、やっぱり鬼!?



幼い宗茂と道雪が散歩をしていたところ、宗茂が「いがぐり」をふんでトゲがさりました。「イタい、ぬいて」という宗茂のもとに、道雪の家臣である由布惟信がかけつけます。ですが、惟信はぬくところをおしつけます。宗茂はおどろき、泣きそうになった時、道雪が鬼の形相で見ていたのです。幼くとも武士は泣かぬという、道雪の厳しいしつけのエピソードです。

# 福岡・古賀 新宮・久山の章

立花の武名を訪ねて

## 1 立花山 たちばなやま



糟屋郡久山町と新宮町、福岡市東区にまたがる標高367mの山。かつては、宗茂や道雪らが城主をつとめた「立花山城」がありました。山頂からの眺めは抜群で福岡市街や博多湾、玄界灘が見渡せます。



## 2 りっかざん ばいがくじ 立花山 梅岳寺



もとは「花谷山神宮寺」といっていましたが、道雪とその母・養孝院が供養されてから現在の名前になりました。道雪、養孝院、家臣の薦野増時の墓が並んでいます。



## 3 六所神社 ろくしょじんじゃ



道雪は神仏の力を強く信じており、出陣の際は戦勝祈願をしたといわれています。境内には県指定天然記念物のカゴノキや道雪の夫人が建てたという薬師堂もあります。



## 4 こものますとき はか 薦野増時の墓



立花家を支えた重臣で、その才能から道雪は増時を養子にし、家督をゆずろうとしたともいいます。遺骨は分けられ「梅岳寺」にも道雪の墓と並んで納められています。

【住所】古賀市薦野1386-18



### 《雷神伝説：戸次(立花)道雪》

道雪が雨宿りをしていると雷が落ちてきました。このとき道雪は刀を抜いて雷を切ったといわれています。のちに雷を切った刀を「雷切」とし大切にしました。雷を受けて足が不自由になった道雪ですが、それでも戦いの強さは凄まじく、雷神と恐れられました。勇ましく強い戸次代ですが、その父も伝説級の強さです。

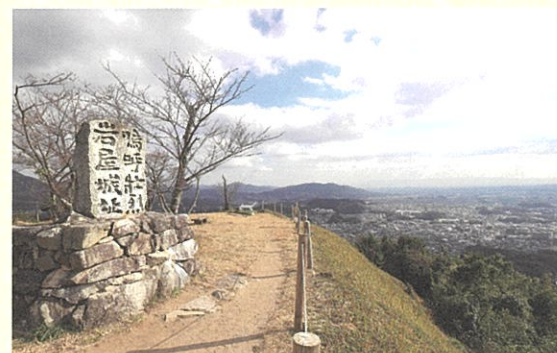


# 太宰府の章

宗茂の実父が眠る地

西の都として栄えた太宰府。この地を任されていたのが、立花宗茂の実父・高橋紹運です。岩屋城の戦いにおいて紹運は時間を稼ぐため徹底抗戦をし、全員が戦死するまで戦います。その間に秀吉の援軍が九州に到着し、宗茂は父の無念を胸に島津軍を打ち破っていきます。太宰府には戦場で散った名将の壮絶な物語が語り継がれています。

## 1 岩屋城跡 いわやじょうあと



「岩屋城」は、四王寺山の中腹にぎざがれていた山城です。1586年、九州制覇を目指す島津4万の大軍に対して、高橋紹運はわずか700余名で戦いぬぎ、戦死します。この戦いで紹運の勇名が知れ渡りました。

【住所】太宰府市観世音寺



### 《忠義の武将：高橋紹運》

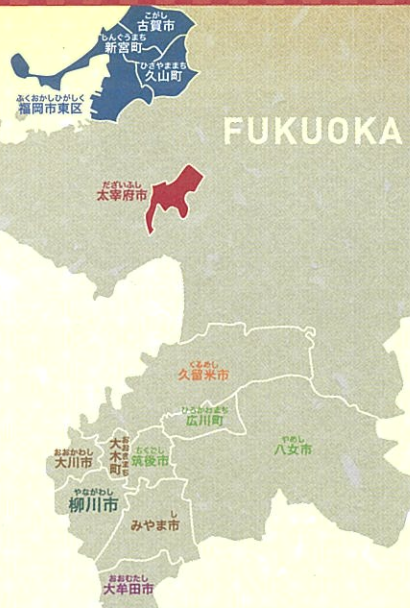
岩屋城の戦いの際、島津軍は紹運に「大友は弱体した、降伏すべきだ」とすすめました。これに対し紹運は「主君が弱ったときに見捨てるのは武士ではない。あなたたちは島津が弱たら見捨てるのか?」と答え、島津の兵を感心させたといわれています。宗茂の義を大切にすることは、父譲りなのかもしれません。



## 素敵すぎる武将、宗茂!!



関ヶ原の戦いのあと、宗茂が大坂城から柳川城まで帰る時に関ヶ原から上げてきた島津義弘と出会いました。島津家は父・高橋紹運を倒した相手です。家臣たちは「今こそカタキを討つ時!」といいますが、宗茂は「敗軍を討つなど武士のやることではない」と、逆に島津軍を守りながら帰りました。義弘は感謝し、ふたりは親しくなったそうです。



# 久留米の章

閻千代生誕と道雪最期の地

1569年、閻千代は道雪の一人娘として筑後国山本郡草野(久留米市草野)に生まれ、立花山城に移り住むまでこの地で育ちました。またこの地は、道雪最期の地でもあります。1585年、龍造寺家が支配していた柳川城攻めの最中、「北野天満宮」の辺りで陣没したと伝わります。戦に明け暮れた道雪らしい最期でした。

※陣没:戦地に向かい、そこで亡くなること。

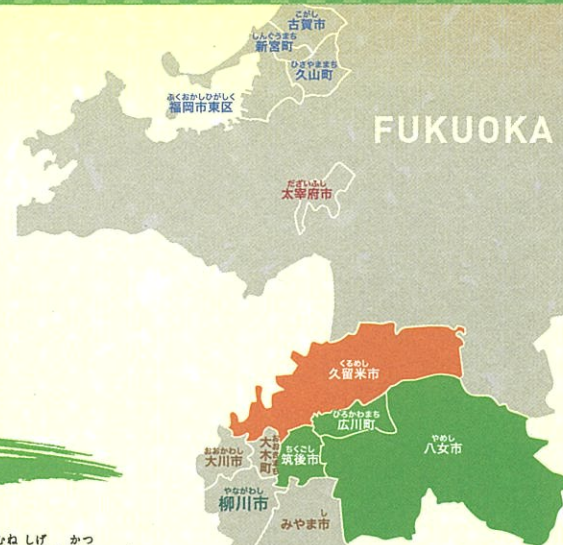


# 八女・筑後 広川の章

羽犬伝説と宗茂の功績が残る地

筑後市羽犬塚の地名の由来になったともいわれる羽犬伝説は、宗茂も活やくした豊臣秀吉の九州平定にまつわる逸話\*です。羽犬の銅像が市内数か所に設置されています。また、宗茂が熱心に国づくりに励んでいたことがわかる「花宗川」など、宗茂の残した功績は私たちの暮らしともつながっています。

※逸話:あまり知られていない興味深い話。



## 1 大本山 善導寺 だいほんざん ぜんどうじ



浄土宗の寺院。国の重要文化財である本堂や、境内には筑後国主・田中吉政の供養塔と並んで閻千代の供養塔があります。  
【住所】久留米市善導寺町飯田550



## 2 きたのてんまんぐう 北野天満宮



京都の北野天満宮より菅原道真公の分霊\*を行い、祀っている神社。道真公とカッパの伝説があり、カッパの手が保管(非公開)されています。  
【住所】久留米市北野町中3267  
※分霊:一つの神社の祭神の霊を分け、他の神社の祭神とすること。  
※祀る:神としてあがめる儀式をして神霊をなぐさめ、祈願すること。



## 1 宗岳寺 そうがくじ



浄土宗鎮西派の寺院。この地方に伝わる「羽犬伝説」発祥の寺院といわれ、境内には地名の由来になったともいわれる「犬の塚(羽犬塚)」と呼ばれる大きな塚が建てられています。  
【住所】筑後市羽犬塚521



## 2 はなむねがわ はなむねざき 花宗川と花宗堰



「花宗川」は、半人工の運河で、宗茂が開発を命じたといわれ、関ヶ原の戦い後は田中吉政へと引き継がれました。「花宗堰」は、矢部川を分流する起点です。  
【住所】八女市津江

### 〈2つの羽犬伝説〉

逸話その一 ~ 愛犬説 ~  
九州平定の際、秀吉が連れて来た羽のある犬(あるいは羽が生えたように跳ね回る犬)が病死し家臣が塚を築いた。

逸話その二 ~ 悪犬説 ~  
どう猛な羽犬が暴れ回っていたのを秀吉が退治した。しかし犬の賢さや強さに感心した秀吉は犬を丁寧に葬った。

## 義に生きた武将、宗茂!?



立花家一の切れ者\*といわれた藤野増時は、関ヶ原の戦いにて東軍につくよう進言\*します。また、徳川家康も宗茂の実力を高く買い、東軍につくようせまますが宗茂は断ります。「秀吉公の恩義を忘れて東軍につくなどありえない」「戦の勝ち負けではない」と西軍についています。宗茂を大名に取り立てた豊臣秀吉への恩義、人格の優れた宗茂らしいエピソードです。

※切れ者:頭の回転が速く、物事を的確に処理する才能のある人。  
※進言:上の者に意見を申し述べること。

## 秀吉もビビる閻千代!?



女好きとして知られた豊臣秀吉が文禄・慶長の役で佐賀の名護屋城にいた際、美しいと評判の閻千代を呼びます。宗茂は速く朝鮮の地にて不在でした。身の危険を感じた閻千代は完全武装し、くわえて侍女\*には鉄砲を持たせて向かったといひます。閻千代の強い意思表示に、さすがの秀吉も何もできなかったそうです。

※侍女:身分の高い人に仕えて、身のまわりの世話をする女性。

# 大川・おやま 大木の章

たたか 戦った勇士の魂を散う

## 1 中八院古戦場跡と三太夫地蔵



1600年、立花軍は鍋島軍とこの地で戦い、多くの家臣が戦死しました。「三太夫地蔵」はこの戦いで亡くなった立花三太夫(統次)を供養するためのものです。  
【住所】大川市中八院

## 2 上八院伊弉諾神社



伊弉諾をまつる神社。拝殿の天井には多くの歴史絵馬が飾られています。その中には「江上・八院の戦い」で戦死した立花三太夫(統次)の絵馬も見られます。  
【住所】三浦郡大木町上八院793-1

※伊弉諾命：日本神話で、国生みと神生みを行った男性の神様。  
※拝殿：本殿の前にあり、祭典や参拝者が拜礼を行う建物。

関ヶ原の戦いで西軍は敗れましたが、九州の関ヶ原はまだ終わりません。柳川に戻った宗茂に、九州の東軍大名が攻めかかります。豊前の黒田、肥前の鍋島、肥後の加藤。特に鍋島軍との「江上・八院の戦い」は激しく立花軍は多くの兵を失います。古戦場跡周辺には戦死者を祀る祠が残り、今も地域住民によって大切に守られています。

※祠：神や祖先、亡くなった方をまつる所。



## 3 荒人神の祠



「江上・八院の戦い」で亡くなった人々の遺骨を集めて祀ったと伝えられる祠です。  
【住所】三浦郡大木町上八院

## 4 上庄八坂神社



宗茂が再興した上庄の祇園さんと呼ばれ、親しまれている神社です。毎年7月に行われる祭り「大人形」は再興のきっかけとなった宗茂の見た夢をもとに作られたと伝わります。  
【住所】みやま市瀬高町上庄155

## 5 宝満神社



宗茂が朝鮮出兵(文禄の役)に際し、戦の無事を祈願したと伝えられています。例年秋に行われる「宝満神社奉納能楽(新開能)」は全国的にも貴重な伝統民俗芸能です。  
【住所】みやま市高田町北新開270

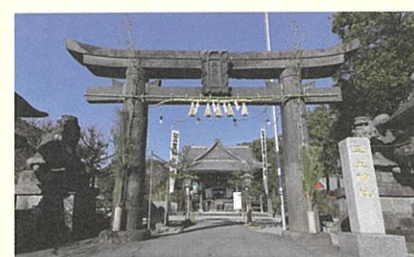


# 大牟田の章

立花家の思いは次世代へ

炭鉱の町として栄えた大牟田市は、江戸時代に三池藩が置かれていました(市の北部は柳川藩の一部)。藩祖は宗茂の実弟・立花直次。直次は「新陰治源流」を開く剣術の達人であり、兄の宗茂を支え多くの活やくを見せました。四代藩主・立花貫長のころに石炭の採掘が始まったといわれ、日本の産業を支えた三池炭鉱の基礎は立花家によって築かれました。

## 1 三笠神社



1870年に現在の地に移された神社で、宗茂の実父・高橋紹運とその正室、そして立花直次を祀っています。  
【住所】大牟田市鳥塚町87  
※正室：正式な妻のこと。

## 2 金剛山 紹運寺



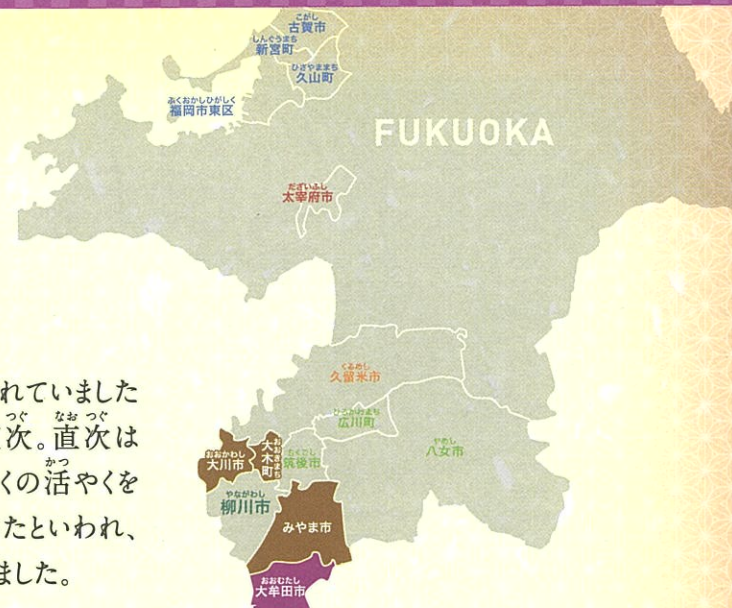
三池藩の初代藩主・立花種次(藩祖・立花直次の息子)によって建てられました。高橋紹運の菩提寺であり、岩屋城の戦いで犠牲になった家臣たちも供養されています。  
【住所】大牟田市今山2599-1



## 〈立花宗茂と閻千代、立花家のその後〉

激動の時代を生きた宗茂と閻千代。関ヶ原の戦いのあと宗茂が改易されると、閻千代は加藤清正の庇護を受け、領内の腹赤村(熊本県長州町)で暮らします。しかし、そこで病をわずらい1602年、34才で死去。宗茂の大名復帰を見届けぬまま世を去りました。大名復帰後の宗茂は、徳川家に重用されます。特に三代将軍・徳川家光に気に入られ、島原・天草の乱にも参加します。生涯美事に恵まれなかった宗茂は、実弟・直次の子、忠茂を養子に迎え柳川藩二代藩主となりました。宗茂は1642年、76才の長寿で死去します。立花を藩祖とする柳川藩・三池藩は、ともに明治までつづき、今もご子孫が立花家を守り続けています。

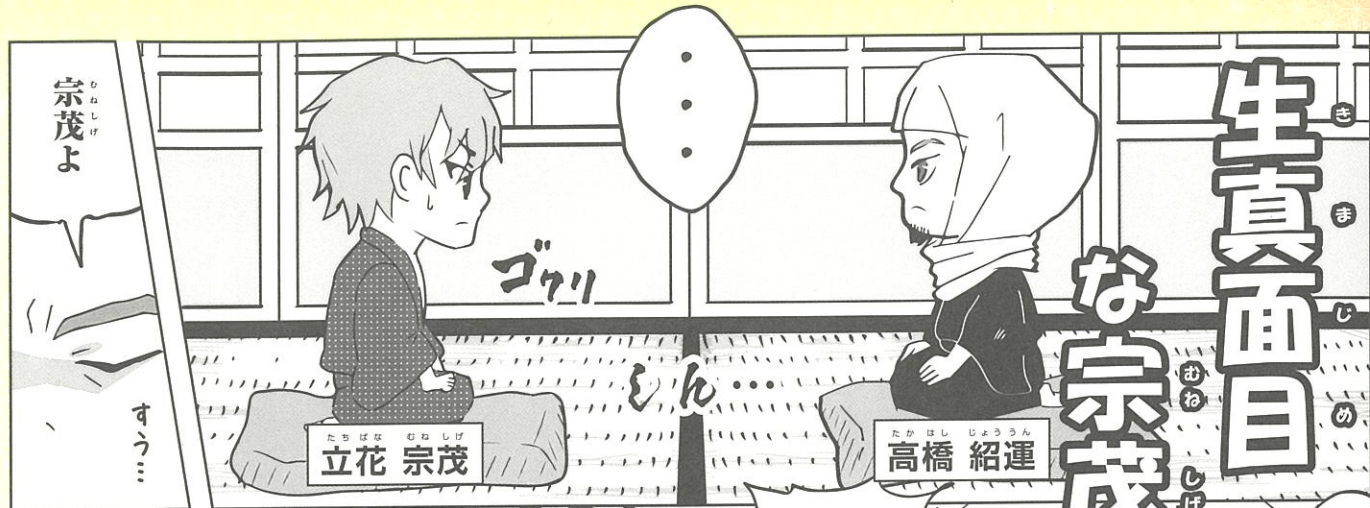
※庇護：かばい、まもること。 ※重用：その人を重んじて、重要な役に用いること。



東軍であった加藤清正は、関ヶ原の戦いのあとに宗茂へ開城をすすめるため柳川へ進軍します。ですがその行く先には戦闘態勢の閻千代が。「やめとこ...」。清正は閻千代のいるルートを選び通ったとか。

# 生真面目

## な宗茂



これからは道雪殿を誠の父と思うのだ。

もし、僕と道雪殿が争うたら

迷わず僕を討て!!!

ちっ父上!!

ぷいっ



お言葉に  
応えるため、

武道に  
励まねば...

キマッタ...!!  
ワシ、カッコイイかも



# 翌朝



イヤイヤ、ワシを討てんか?  
ヤンまでし  
励まんでも...

道雪は宗茂の優秀さを認め、養子にしたいと紹運に申し出ます。宗茂は高橋家の後継だとして紹運は断りますが、道雪がゆずらず紹運は受け入れれます。紹運は「これより道雪殿を実の父と思ひ、道雪殿と私が争うことになれば私を討て」と宗茂に伝え送り出したといひます。



# 頑固な

## 閻千代

この子に良い名をつけたい!

何かないか!!

道雪さま...

# ネラズン!

戸次(立花)道雪

おつ、おつ、それは良い名じゃ!!

閻千代に決定だ!!

ガンコな僕に似るなと...



時は流れ...

男子がいない道雪は、閻千代を後継として教育した。

習い事も大切ですよ

人の話を少しは聞いてよ

傳役 城戸 知正

イヤじゃ!!

絶対、生花などやるものか!



武を極めるのだあー!

ヤンまでし励まんでも...



我が道をいく...

戸次(立花)道雪の一人娘として生まれた閻千代。名前の「閻」は「慎み人の話を聞く」という意味ですが、名前に込められた願いとは逆に、気性が激しかったといわれています。閻千代が7才の時に道雪から立花家をゆずられ、戦国時代でもめずらしい女城主が誕生します。

※傳役:お守り役、身分の高い家に生まれた子どものお世話係や教育係のこと。



さいごく ぶ そう  
西国無双

お や こ 劇 場

かん まつ とく べつ まん が  
巻末特別漫画

き ま じ め む ね し げ  
～生真面目な宗茂～  
が ん こ ざ ん ち よ  
～頑固な闇千代～

